

8. 災害時の備え

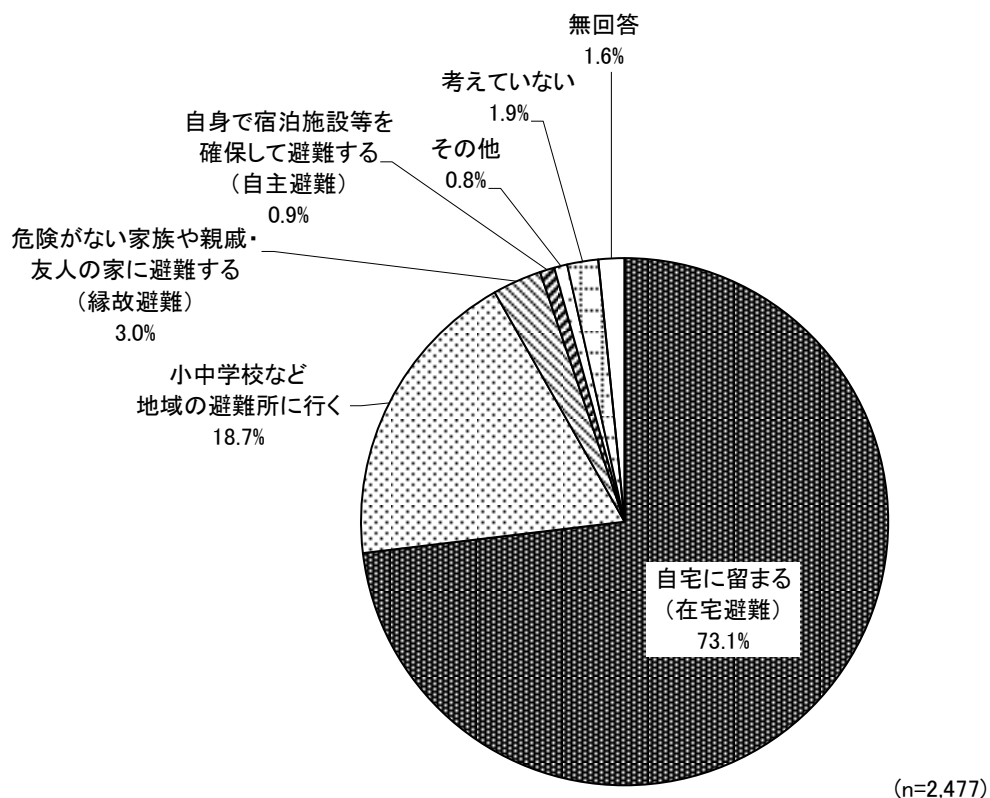
(1) 大地震の際の避難行動

◎「自宅に留まる（在宅避難）」が7割を超える

問21 あなたは震度6強（※）の大きな地震が発生し、自宅が無事で危険がない場合、どのような避難行動をとると思いますか。（○は1つ）

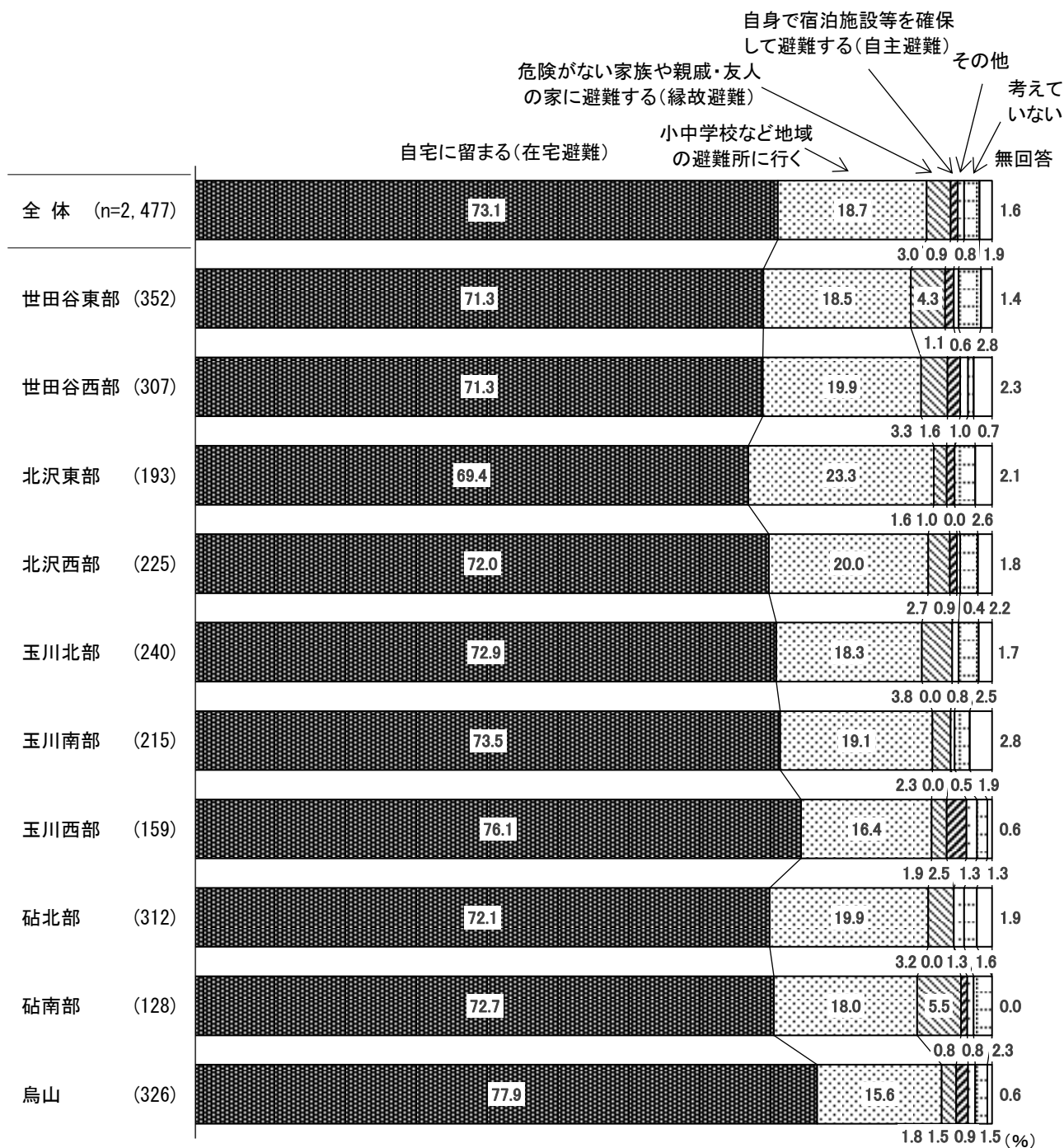
※首都直下地震では世田谷区の約7割の面積で震度6強が観測されると想定されている。

図8-1-1



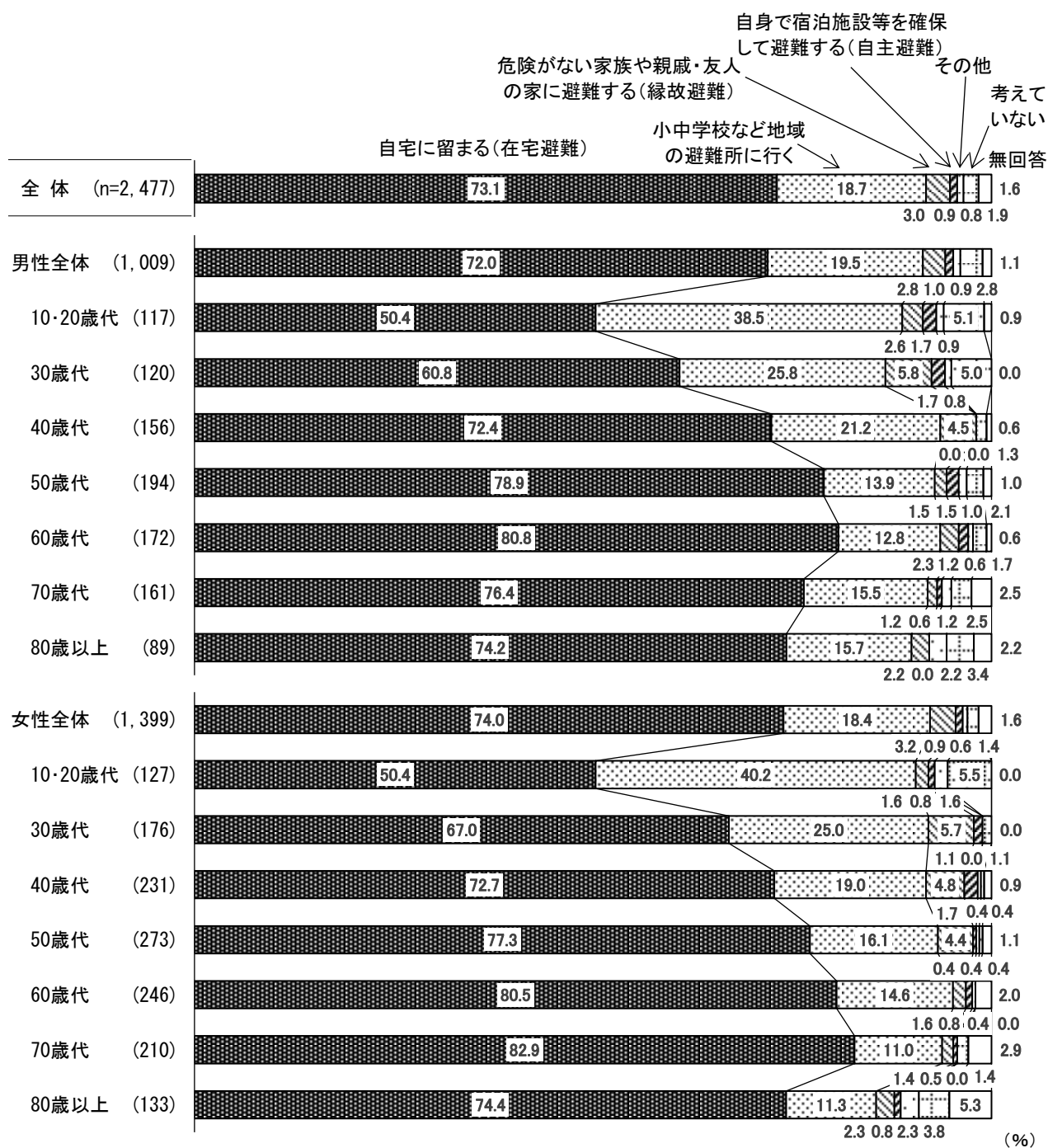
大地震の際に自宅が無事で危険がない場合の避難行動を聞いたところ、「自宅に留まる（在宅避難）」（73.1%）が7割を超えて最も高く、以下、「小中学校など地域の避難所に行く」（18.7%）、「危険がない家族や親戚・友人の家に避難する（縁故避難）」（3.0%）などと続く。（図8-1-1）

図 8 - 1 - 2 大地震の際の避難行動（地域別）



地域別にみると、「自宅に留まる（在宅避難）」は烏山で8割近く、玉川西部で7割半ば、その他の地域も7割前後となっている。「小中学校など地域の避難所に行く」は北沢東部で2割を超えている。（図 8 - 1 - 2）

図 8-1-3 大地震の際の避難行動（性・年齢別）



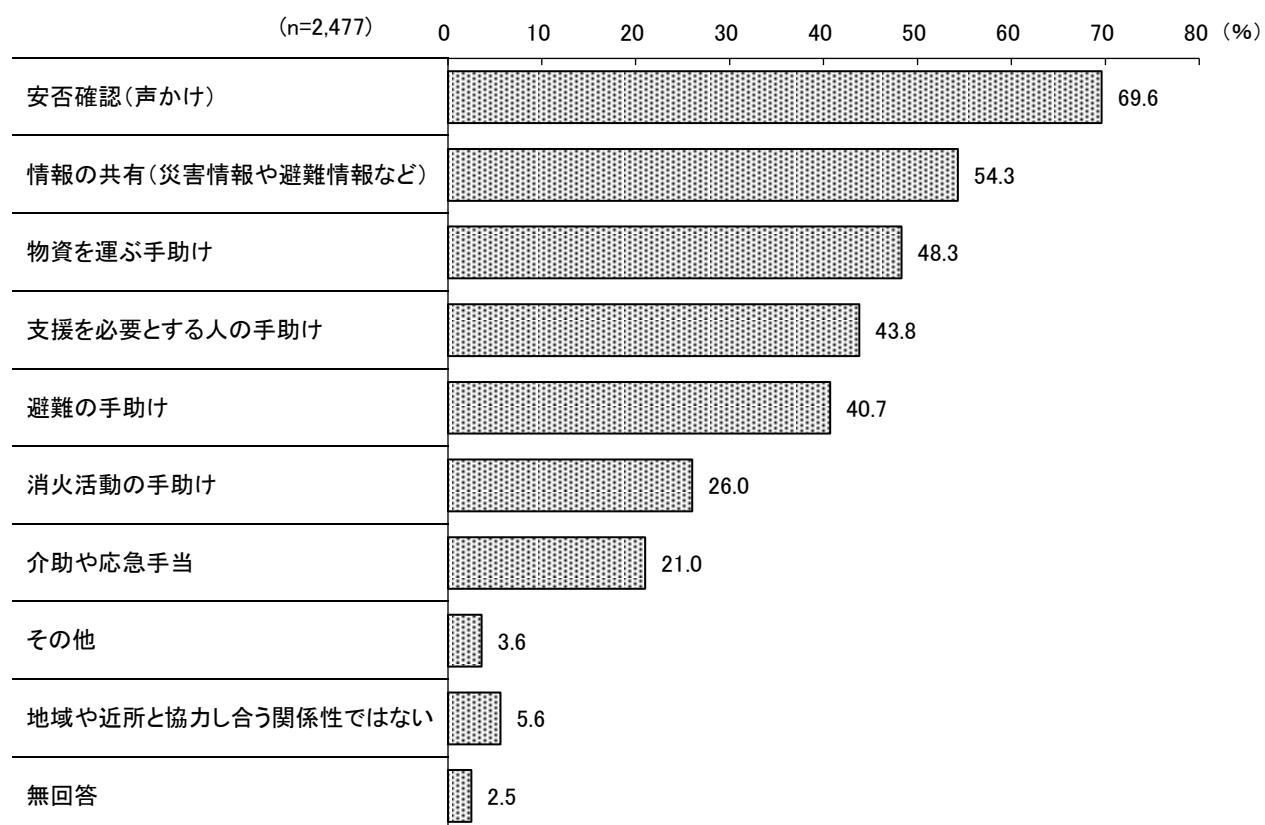
性・年齢別にみると、「自宅に留まる（在宅避難）」は女性の 70 歳代で 8 割を超え、男女とも 60 歳代でほぼ 8 割となっている。「小中学校など地域の避難所に行く」は女性の 10・20 歳代で 4 割、男性の 10・20 歳代で 4 割近くとなっている。（図 8-1-3）

（２）災害時にできる住民同士の助け合い

◎「安否確認（声かけ）」が７割

問２２ あなたは、災害時に地域や近所の住民同士でどのような手助けができると思いますか。自分ができること、やりたいと思うことをお答えください。（○はいくつでも）

図８－２－１



災害時に住民同士でどのような手助けができるか聞いたところ、「安否確認（声かけ）」（69.6%）が７割で最も高く、以下、「情報の共有（災害情報や避難情報など）」（54.3%）、「物資を運ぶ手助け」（48.3%）、「支援を必要とする人の手助け」（43.8%）、「避難の手助け」（40.7%）などと続く。（図８－２－１）

表 8－2－1 災害時にできる住民同士の助け合い（地域別）

(%)											
	n	安否確認（声かけ）	情報の共有（災害情報や避難情報など）	物資を運ぶ手助け	支援を必要とする人の手助け	避難の手助け	消火活動の手助け	介助や応急手当	その他	地域や近所と協力し合う関係性ではない	無回答
全 体	2,477	69.6	54.3	48.3	43.8	40.7	26.0	21.0	3.6	5.6	2.5
地 域 別	世田谷東部	352	68.2	52.8	42.0	43.8	37.8	24.1	20.5	3.1	2.6
	世田谷西部	307	69.7	53.1	51.8	41.0	40.1	25.1	17.3	4.6	1.3
	北沢東部	193	68.9	46.6	50.8	46.1	43.0	23.8	18.1	4.7	3.6
	北沢西部	225	68.4	52.0	42.2	40.0	37.8	21.3	19.6	4.9	3.1
	玉川北部	240	72.1	62.9	50.4	51.3	45.8	25.8	20.0	3.8	2.1
	玉川南部	215	68.8	55.8	50.2	47.0	41.4	28.8	20.5	2.8	1.9
	玉川西部	159	72.3	57.9	55.3	39.6	43.4	27.7	20.8	2.5	2.5
	砧北部	312	72.1	57.1	47.1	45.2	41.7	25.6	24.4	2.6	3.2
	砧南部	128	75.8	57.0	46.9	45.3	42.2	34.4	28.9	4.7	2.3
	烏山	326	66.6	51.8	51.8	41.7	39.9	28.8	23.3	2.8	0.9

地域別にみると、「安否確認（声かけ）」は砧南部で7割半ば、玉川西部、玉川北部、砧北部で7割を超えている。「情報の共有（災害情報や避難情報など）」は玉川北部で6割を超え、玉川西部、砧北部、砧南部で6割近くとなっている。「物資を運ぶ手助け」は玉川西部で5割半ば、世田谷西部、烏山で5割を超え、「支援を必要とする人の手助け」は玉川北部で5割を超えている。

（表 8－2－1）

表 8 - 2 - 2 災害時にできる住民同士の助け合い（性・年齢別）

（％）

		n	安否確認（声かけ）	情報の共有（災害情報や避難情報など）	物資を運ぶ手助け	支援を必要とする人の手助け	避難の手助け	消火活動の手助け	介助や応急手当	その他	地域や近所と協力し合う関係性ではない	無回答
全 体		2,477	69.6	54.3	48.3	43.8	40.7	26.0	21.0	3.6	5.6	2.5
性・年齢別	男性全体	1,009	65.6	51.7	54.0	44.5	45.2	34.5	21.5	4.3	5.6	1.9
	10・20歳代	117	52.1	43.6	63.2	34.2	40.2	20.5	21.4	3.4	12.0	0.9
	30歳代	120	58.3	38.3	58.3	38.3	49.2	33.3	20.8	5.8	8.3	2.5
	40歳代	156	62.2	57.7	68.6	44.9	55.1	44.2	24.4	7.7	2.6	0.6
	50歳代	194	71.1	60.3	63.9	51.5	52.1	46.9	28.4	2.6	6.7	—
	60歳代	172	68.0	57.0	54.7	52.3	45.3	42.4	23.3	2.9	4.7	1.2
	70歳代	161	73.3	49.7	36.0	44.1	41.0	23.0	14.9	5.0	4.3	0.6
	80歳以上	89	68.5	44.9	20.2	36.0	21.3	15.7	11.2	2.2	1.1	12.4
	女性全体	1,399	73.1	56.8	45.4	43.7	38.4	20.4	21.1	3.1	5.4	2.4
	10・20歳代	127	63.8	52.0	51.2	36.2	41.7	16.5	25.2	1.6	5.5	1.6
	30歳代	176	71.6	52.8	52.3	42.0	46.0	21.6	21.6	1.1	9.1	1.7
	40歳代	231	74.9	62.3	60.6	47.6	42.4	30.3	26.8	0.9	7.4	—
	50歳代	273	76.2	67.0	57.1	50.9	46.5	26.0	25.6	2.9	6.2	1.1
	60歳代	246	73.2	65.4	49.6	48.8	40.7	22.4	21.1	2.4	2.0	2.0
	70歳代	210	77.1	51.0	21.4	42.4	27.6	11.4	15.2	4.3	3.3	2.9
	80歳以上	133	68.4	30.1	9.8	25.6	14.3	4.5	6.8	11.3	4.5	9.8

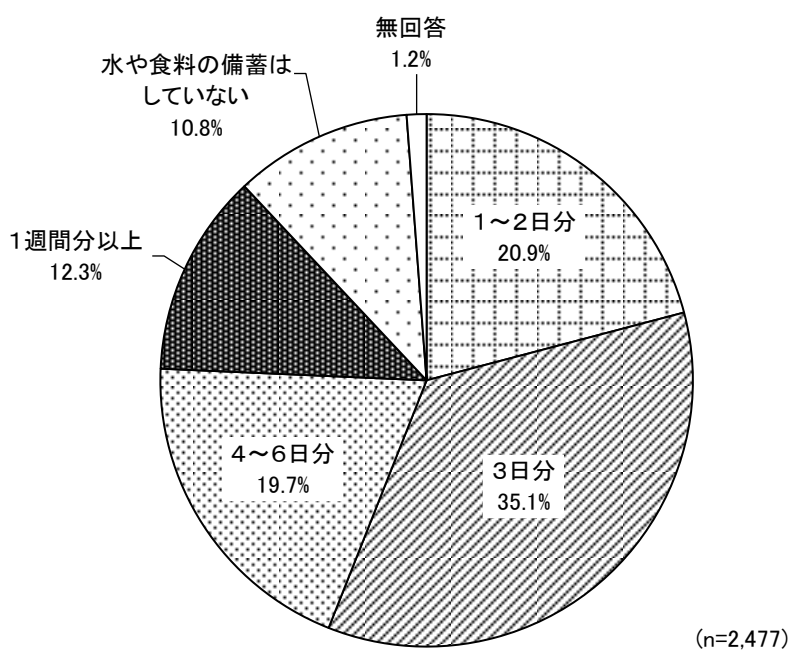
性・年齢別にみると、男性は「物資を運ぶ手助け」、「避難の手助け」、「消火活動の手助け」が女性より高く、女性は「安否確認（声かけ）」、「情報の共有（災害情報や避難情報など）」が男性より高い傾向にある。一方、「地域や近所と協力し合う関係性ではない」は男性の10・20歳代で1割を超え、女性の30歳代でほぼ1割となっている。（表 8 - 2 - 2）

(3) 水や食料の備蓄について

◎水や食料の備蓄は「3日分」が3割半ば

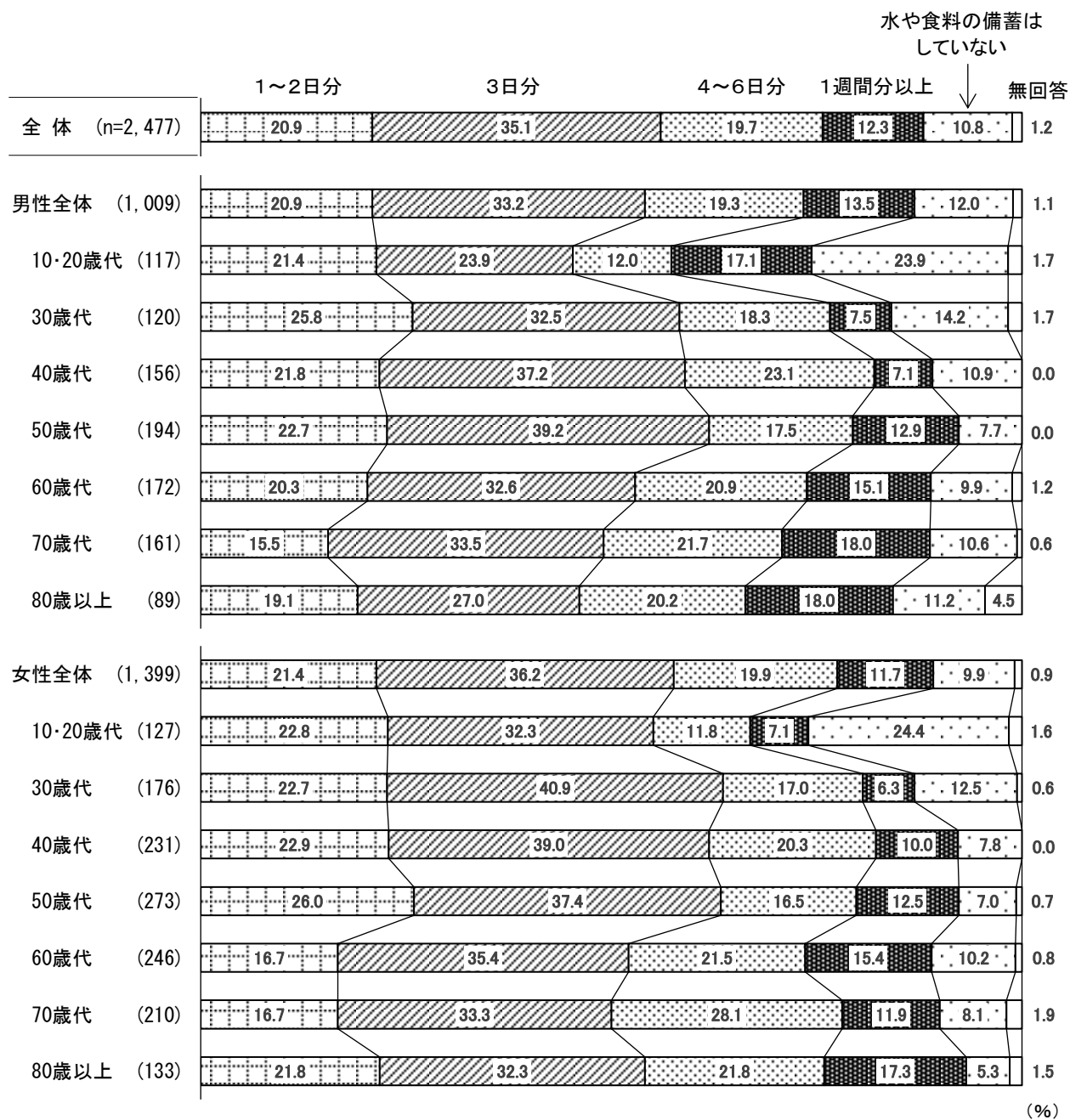
問23 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。(〇は1つ)

図8-3-1



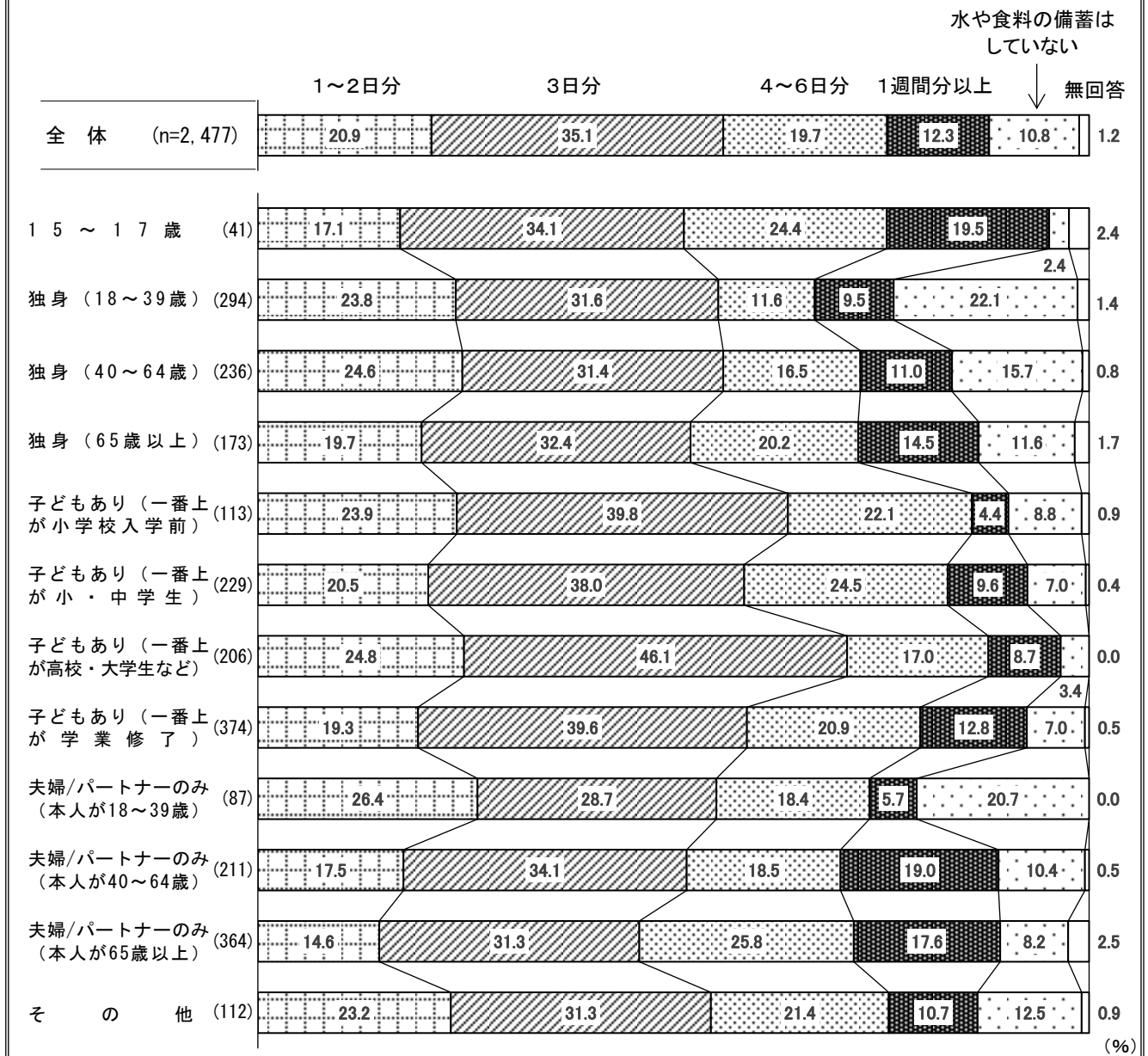
災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているか聞いたところ、「3日分」(35.1%)が3割半ばで最も高く、以下、「1~2日分」(20.9%)、「4~6日分」(19.7%)などと続く。「水や食料の備蓄はしていない」(10.8%)はほぼ1割となっている。(図8-3-1)

図 8 - 3 - 2 水や食料の備蓄について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は、すべての年代で5割を超えており、男性の70歳代、女性の60歳代以上で7割を超えている。「水や食料の備蓄はしていない」は女性の10・20歳代で2割半ば、男性の10・20歳代で2割を超えている。（図8-3-2）

図 8-3-3 水や食料の備蓄について（ライフスタイル別）



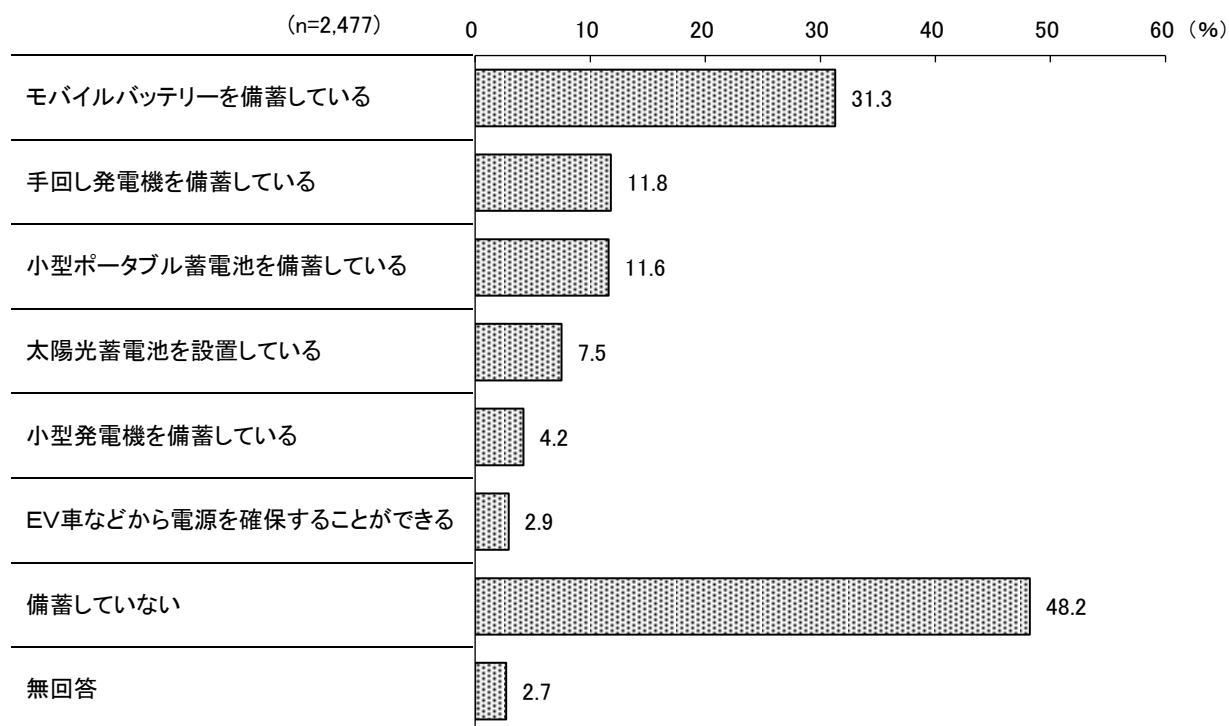
ライフスタイル別にみると、3日以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は、15～17歳で8割近く、夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）で7割半ば、子どもあり（一番上が小・中学生）、子どもあり（一番上が高校・大学生など）、子どもあり（一番上が学業修了）、夫婦/パートナーのみ（本人が40～64歳）で7割を超えている。「水や食料の備蓄はしていない」は独身（18～39歳）で2割を超え、夫婦/パートナーのみ（本人が18～39歳）でほぼ2割となっている。（図8-3-3）

(4) 非常用電力の備蓄について

◎非常用電力は「備蓄していない」が5割近く

問24 あなたのご家庭では、災害に備えて非常用電力の備蓄をしていますか。(〇はいくつでも)

図8-4-1



災害時に備えた非常用電力を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄していない」(48.2%)が5割近くで最も高い。備蓄している中では、「モバイルバッテリーを備蓄している」(31.3%)が3割を超えて最も高く、以下、「手回し発電機を備蓄している」(11.8%)、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」(11.6%)などと続く。(図8-4-1)

表 8 - 4 - 1 非常用電力の備蓄について（性・年齢別）

(%)

		n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	EV車などから電源を確保することができる	備蓄していない	無回答
全 体		2,477	31.3	11.8	11.6	7.5	4.2	2.9	48.2	2.7
性・年齢別	男性全体	1,009	29.0	10.7	12.3	8.4	3.4	3.3	50.4	1.8
	10・20歳代	117	32.5	14.5	9.4	8.5	8.5	5.1	50.4	2.6
	30歳代	120	37.5	10.0	9.2	5.0	4.2	1.7	43.3	2.5
	40歳代	156	38.5	11.5	12.8	11.5	3.2	1.3	39.7	1.3
	50歳代	194	34.0	9.3	18.6	7.7	3.1	3.1	46.9	1.0
	60歳代	172	29.1	15.7	14.0	7.0	1.2	4.1	50.6	1.2
	70歳代	161	17.4	6.8	9.3	11.8	1.9	5.0	60.2	0.6
	80歳以上	89	6.7	5.6	7.9	5.6	3.4	2.2	68.5	5.6
	女性全体	1,399	33.4	12.9	11.3	6.9	4.8	2.7	46.7	2.9
	10・20歳代	127	46.5	16.5	4.7	4.7	7.1	1.6	38.6	0.8
	30歳代	176	46.0	18.2	8.0	4.5	2.8	1.1	40.3	1.1
	40歳代	231	47.6	15.6	18.6	10.4	5.6	3.9	30.7	0.9
	50歳代	273	42.9	12.8	15.8	9.9	4.8	4.0	39.9	1.8
	60歳代	246	25.6	12.2	10.6	6.5	4.9	2.8	52.4	3.3
	70歳代	210	12.9	9.5	8.6	5.2	3.8	2.4	62.4	4.3
	80歳以上	133	7.5	5.3	6.0	3.0	5.3	1.5	67.7	10.5

性・年齢別にみると、「備蓄していない」は男女とも70歳代以上で6割台となっている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は女性の10・20歳代と40歳代で5割近く、女性の30歳代で4割半ばとなっている。「手回し発電機を備蓄している」は女性の10・20歳代と30歳代で2割近く、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」は男性の50歳代、女性の40歳代で2割近くとなっている。

(表 8 - 4 - 1)

表 8－4－2 非常用電力の備蓄について（ライフスタイル別）

			モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	EV車などから電源を確保することができる	備蓄していない	無回答	(%)
全 体		2,477	31.3	11.8	11.6	7.5	4.2	2.9	48.2	2.7	
ライフスタイル別	15～17歳	41	53.7	19.5	7.3	17.1	9.8	7.3	24.4	4.9	
	独身(18～39歳)	294	38.4	15.0	7.1	4.8	6.1	1.4	46.9	1.4	
	独身(40～64歳)	236	32.2	8.9	11.0	4.7	1.3	1.3	52.1	1.7	
	独身(65歳以上)	173	12.1	5.8	4.0	4.0	1.7	1.2	69.4	5.8	
	子どもあり(一番上が小学校入学前)	113	40.7	11.5	12.4	7.1	3.5	2.7	38.9	1.8	
	子どもあり(一番上が小・中学生)	229	50.2	15.7	16.2	10.9	4.8	2.2	33.2	0.4	
	子どもあり(一番上が高校・大学生など)	206	43.2	12.6	18.0	14.1	2.4	6.8	35.9	1.0	
	子どもあり(一番上が学業修了)	374	27.3	13.4	14.7	9.1	5.9	2.9	47.6	3.7	
	夫婦/パートナーのみ(本人が18～39歳)	87	39.1	12.6	4.6	2.3	4.6	2.3	47.1	—	
	夫婦/パートナーのみ(本人が40～64歳)	211	37.0	13.7	17.1	6.2	5.7	2.8	39.8	1.9	
	夫婦/パートナーのみ(本人が65歳以上)	364	16.8	8.2	10.4	8.0	3.3	3.8	59.1	4.1	
	その他	112	12.5	8.9	7.1	3.6	4.5	5.4	62.5	5.4	

ライフスタイル別にみると、「備蓄していない」は独身（65歳以上）でほぼ7割、その他で6割を超え、夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）でほぼ6割となっている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は15～17歳で5割を超え、子どもあり（一番上が小・中学生）で5割となっている。

「手回し発電機を備蓄している」は15～17歳で2割、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」は子どもあり（一番上が高校・大学生など）と夫婦/パートナーのみ（本人が40～64歳）で2割近くとなっている。（表8－4－2）

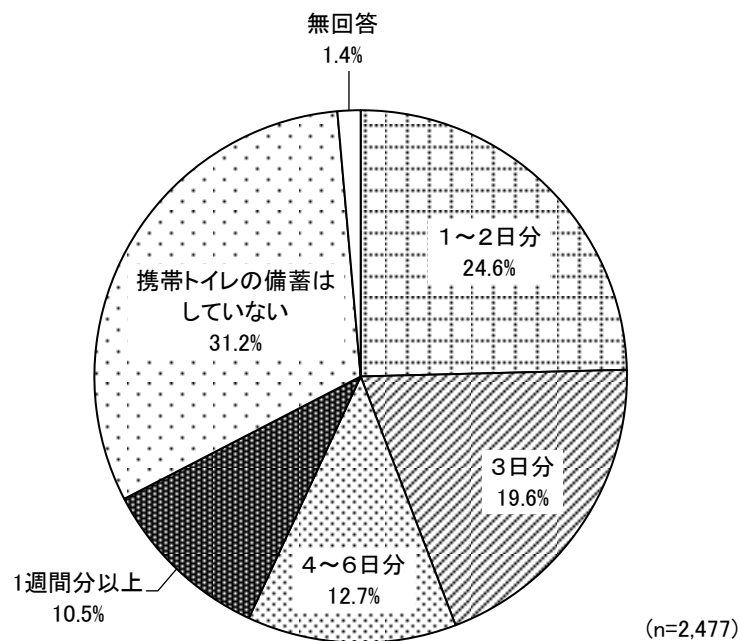
(5) 携帯トイレの備蓄について

◎「携帯トイレの備蓄はしていない」が3割を超える

問25 あなたのご家庭では、携帯トイレを何日分備蓄していますか。(○は1つ)

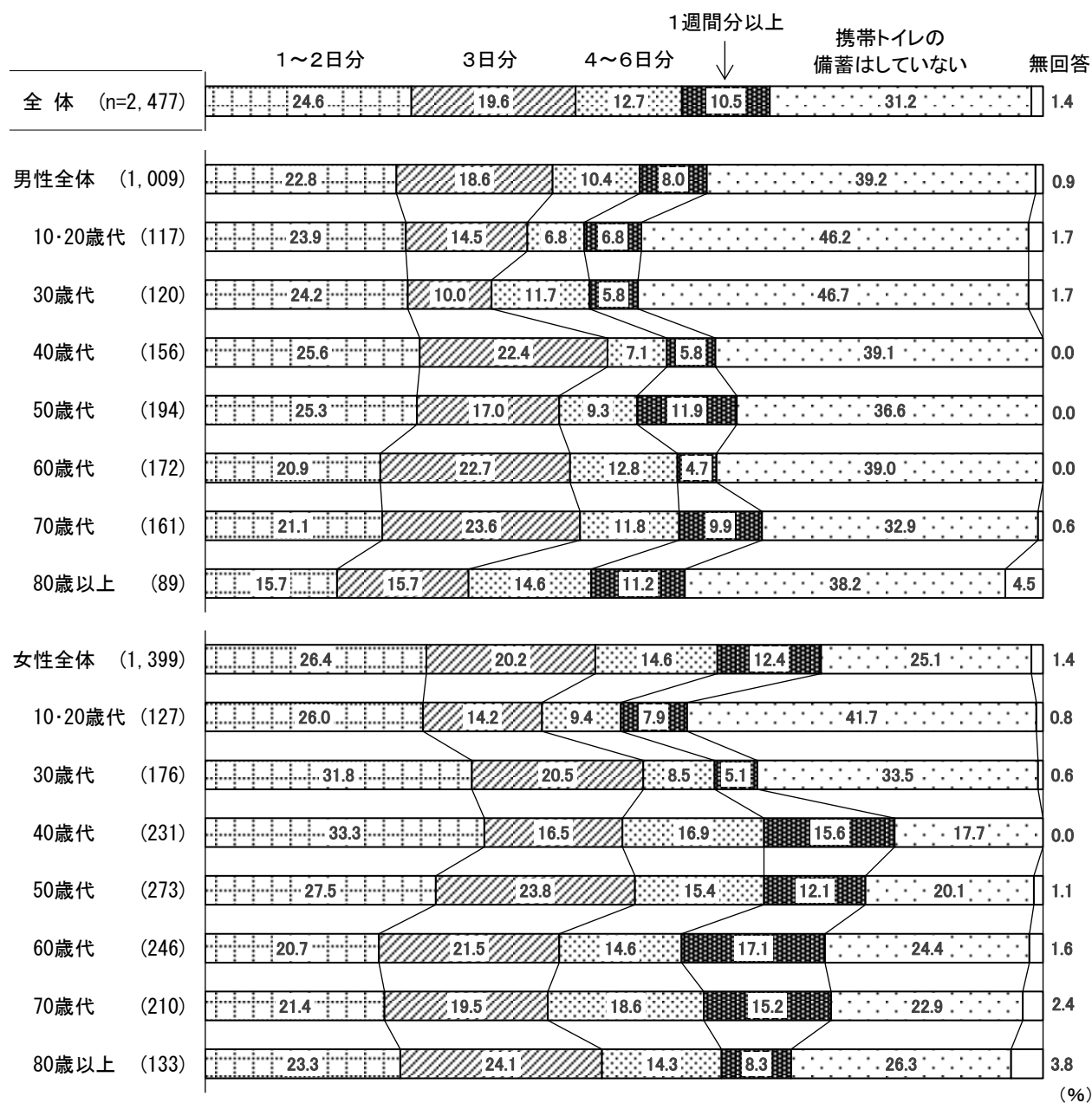
※備蓄の目安：1人1日約5回×家族分

図8-5-1



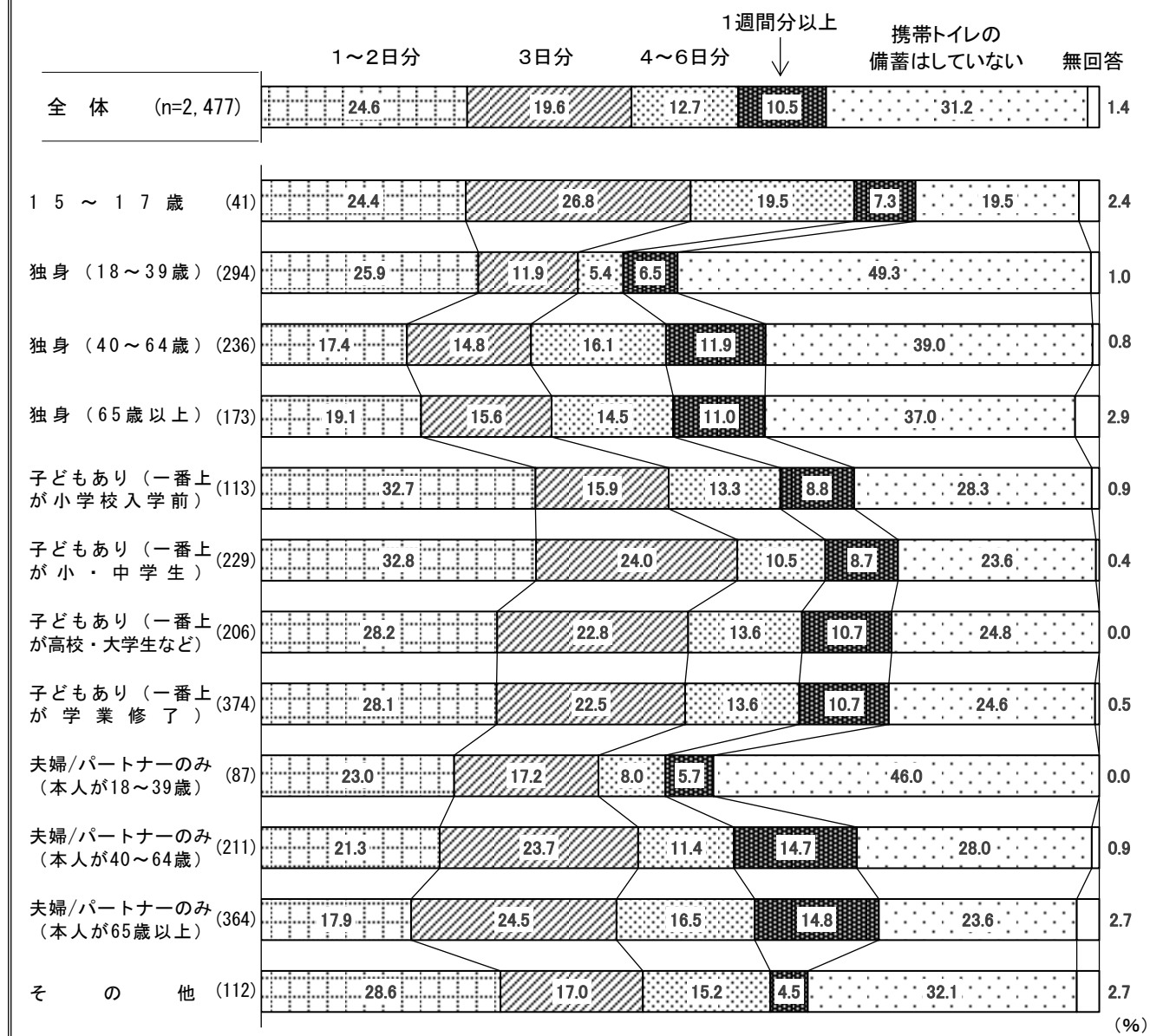
災害に備えて携帯トイレを何日分備蓄しているか聞いたところ、「携帯トイレの備蓄はしていない」(31.2%)が3割を超えて最も高い。備蓄している中では、「1～2日分」(24.6%)、「3日分」(19.6%)、「4～6日分」(12.7%)、「1週間分以上」(10.5%)と続く。(図8-5-1)

図 8-5-2 携帯トイレの備蓄について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の携帯トイレを備蓄している割合は、女性の50歳代～70歳代で5割を超え、女性の40歳代と80歳以上で5割近くとなっている。「携帯トイレの備蓄はしていない」は男性の30歳代で5割近く、男性の10・20歳代で4割半ば、女性の10・20歳代で4割を超えている。（図8-5-2）

図 8-5-3 携帯トイレの備蓄について（ライフスタイル別）



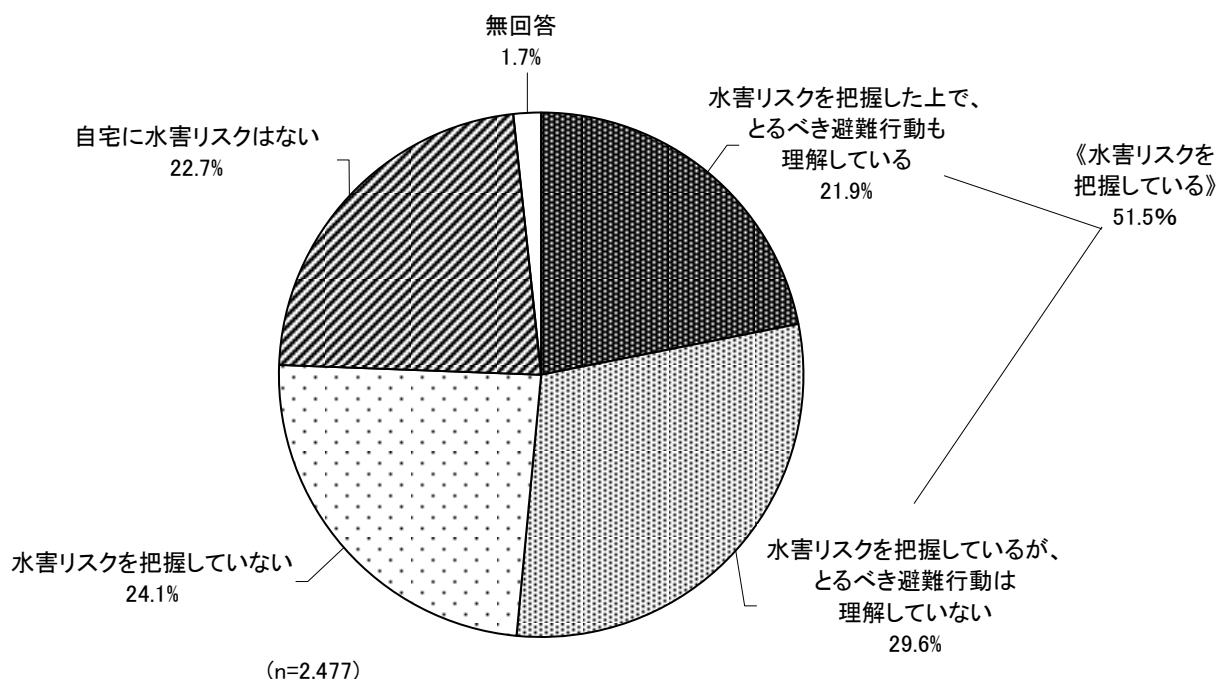
ライフスタイル別にみると、3日以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の携帯トイレを備蓄している割合は、夫婦/パートナーのみ（本人が65歳以上）で5割半ば、15～17歳で5割を超え、夫婦/パートナーのみ（本人が40～64歳）で5割となっている。「1～2日分」は子どもあり（一番上が小学校入学前）、子どもあり（一番上が小・中学生）で3割を超え、「携帯トイレの備蓄はしていない」は独身（18～39歳）でほぼ5割、夫婦/パートナーのみ（本人が18～39歳）で4割半ばとなっている。（図8-5-3）

(6) 自宅の水害リスクの把握度

◎ 《水害リスクを把握している》が5割を超える

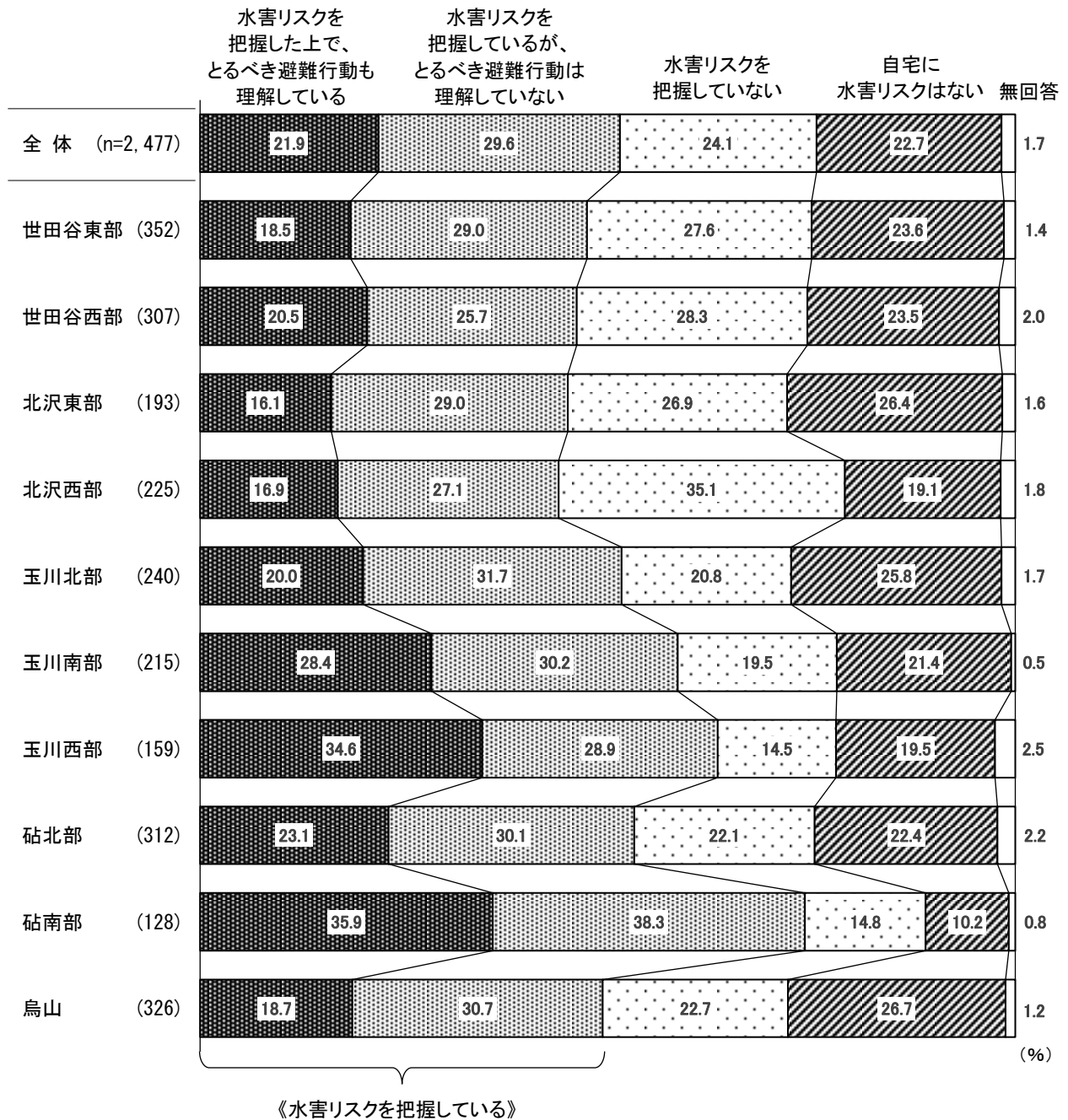
問26 あなたは、ハザードマップ等により、ご自宅の水害リスクを把握していますか。
(○は1つ)

図8-6-1



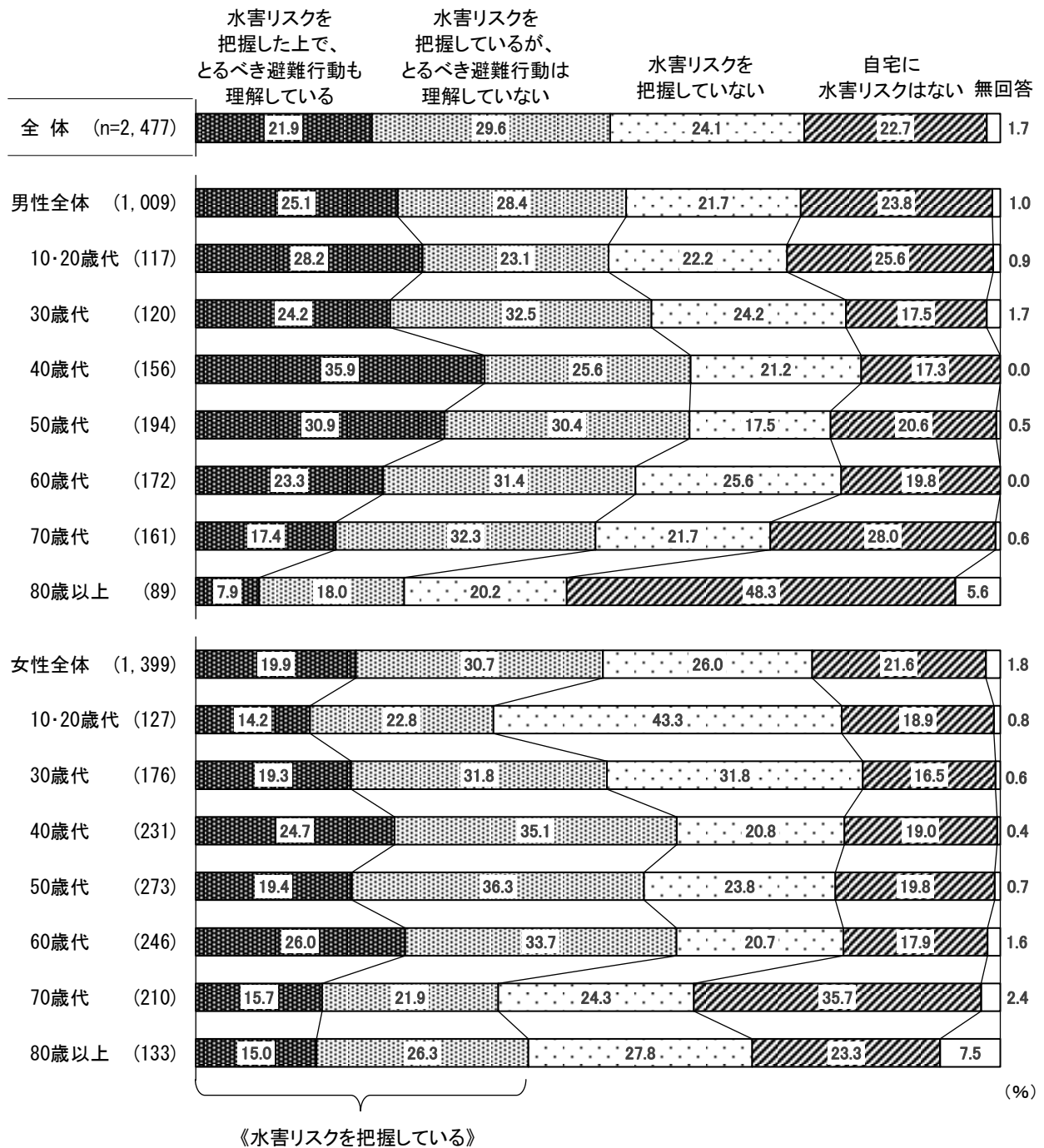
自宅の水害リスクを把握しているか聞いたところ、「水害リスクを把握しているが、とるべき避難行動は理解していない」(29.6%)が3割で最も高く、「水害リスクを把握した上で、とるべき避難行動も理解している」(21.9%)が2割を超え、両者を合わせた《水害リスクを把握している》(51.5%)が5割を超えている。「水害リスクを把握していない」(24.1%)は2割半ば、「自宅に水害リスクはない」(22.7%)は2割を超えている。(図8-6-1)

図 8-6-2 自宅の水害リスクの把握度（地域別）



地域別にみると、《水害リスクを把握している》は砧南部で7割半ば、玉川西部で6割を超え、玉川南部で6割近くとなっている。「水害リスクを把握した上で、とるべき避難行動も理解している」は砧南部、玉川西部で3割半ばとなっている一方で、「水害リスクを把握しているが、とるべき避難行動は理解していない」は砧南部で4割近くとなっている。「水害リスクを把握していない」は北沢西部で3割半ばとなっている。（図8-6-2）

図 8 - 6 - 3 自宅の水害リスクの把握度（性・年齢別）



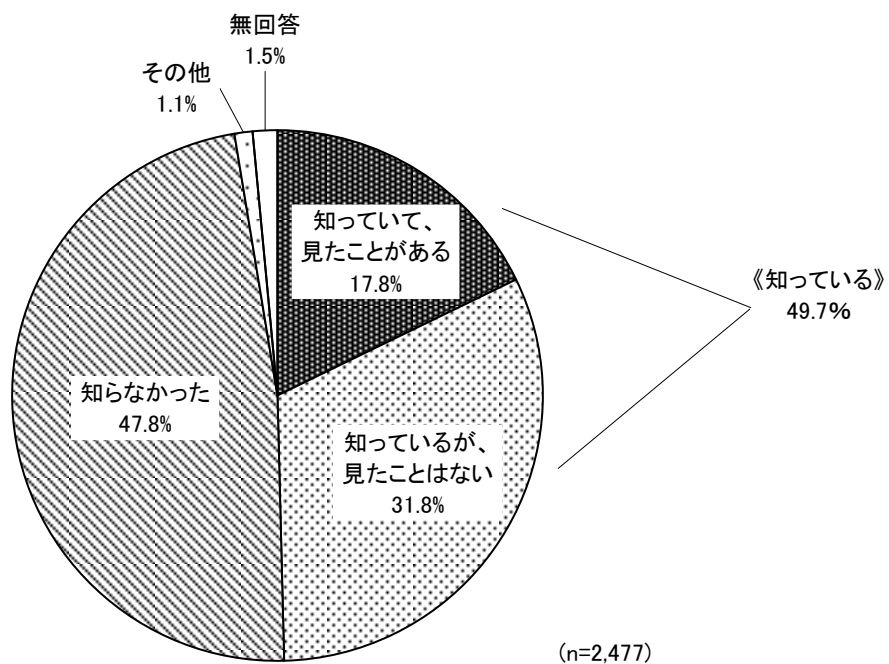
性・年齢別にみると、《水害リスクを把握している》は男性の40歳代と50歳代で6割を超え、女性の40歳代と60歳代で6割となっている。「水害リスクを把握した上で、とるべき避難行動も理解している」は男性の40歳代で3割半ば、男性の50歳代でほぼ3割となっている。「水害リスクを把握しているが、とるべき避難行動は理解していない」は女性の40歳代と50歳代で3割半ばとなっている。「水害リスクを把握していない」は女性の10・20歳代で4割を超え、女性の30歳代で3割を超えている。（図8-6-3）

(7) 世田谷区防災ポータルサイトの認知度

◎ 《知っている》が5割

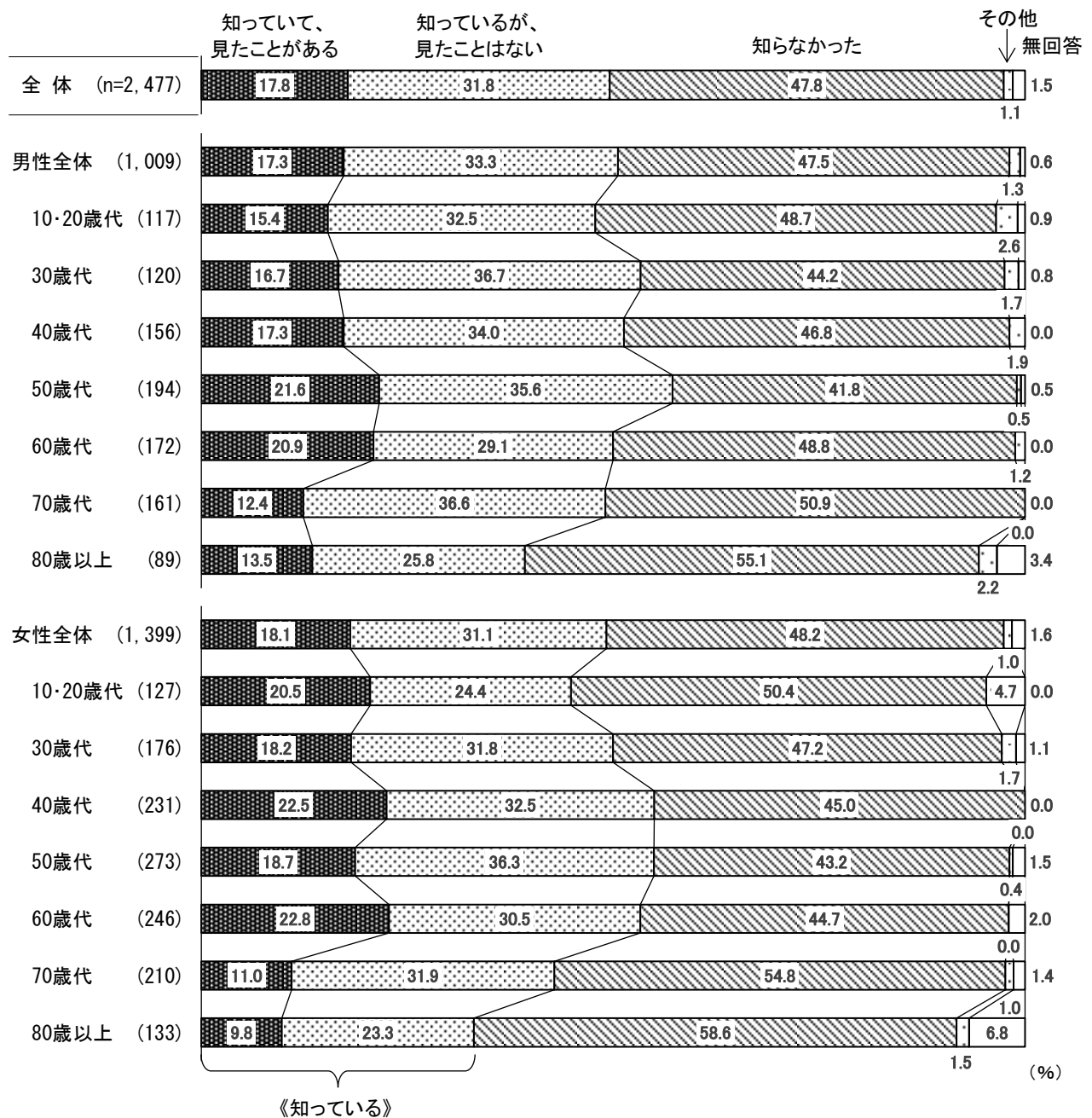
問27 あなたは、世田谷区防災ポータルサイトのことを知っていますか。(○は1つ)

図8-7-1



世田谷区防災ポータルサイトの認知度を聞いたところ、「知っているが、見たことはない」(31.8%)と「知っている、見たことがある」(17.8%)を合わせた《知っている》(49.7%)が5割となっている。一方、「知らなかった」(47.8%)は5割近くとなっている。(図8-7-1)

図 8-7-2 世田谷区防災ポータル認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》は男性の50歳代で6割近く、女性の40歳代と50歳代で5割半ばとなっている。「知っている、見たことがある」は男性の50歳代、女性の40歳代と60歳代で2割を超えている。一方、「知らなかった」は女性の80歳以上で6割近く、男性の80歳以上、女性の70歳代で5割半ばとなっている。（図8-7-2）